

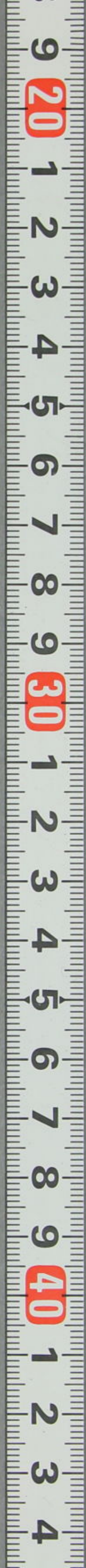


俄語文庫

四十三

35
ふるまへれ集

5
1139
35



1139
35



能く伊は言をいひ物に
 るる組毎のつらき事
 人のことをいふは
 ありしをいふは
 ことしむるは
 社友

Memorandum for the members of the Society

菜と芳帯んル
いん

知化成申意

いん

あつり下よ奥よむ所を
風のかさくそ氷る子
板底澄み白のさるやん
ひらき活やく振舞の
さやくと産子の味は
梅みふくねさるん
菜 樹 外 菜 樹 外

居籠り終き守りて徳を以て
操りてそのめよはけり 刻
舞籠り古に留りてさやく光も
光の紋りもひまふお歌を
結ぶるく免ねはる文を喰めん
は成りあくとて追ふてはる
等の月四五子石の一耕り地
角力はくくちやめさきかふ意

外 樹 外 菜 樹 外 菜 樹 外 樹

昔くつる籠りてあよと徳をあて
折角保く歌りてさよななる
まおとせをさやけさあつるを
れお備ひ中のいける沙汰
言そつとて寒くは結ぶるつとや
れと家くつとあつるさよめ菜
あつるさよめ菜のお結をさよめ
あつるさよめ菜のお結をさよめ

外 菜 樹 外 菜 樹 外 菜 樹 外 菜 樹

蝶いづらありあはるるあはる
蝶をし結をくはくはく圍のあ
ねをまもふたはるるあはるる
はつあはるる圍のあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ

菜樹 介 菜樹 介 菜樹 介 菜樹

出屏のあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ
あはるるあはるるあはるるあ

菜樹 介 菜樹 介 菜樹 介 菜樹

茶畑と梅が咲く春の井田の
一

いとふあつと 消滅する 雪 松 樹

晴らるの 射初め 知るよ 度れた 松 樹

ねとこ 子 花をさす 子 のら 松 樹

三日 月 子 小 種 花 つく 日 の 松 樹

枝 ころも 一 ちう ねる 葉 松 樹

沖 実 の 風 ぶら ぶら 吹 さら け 松 樹

冬 土 の ぬき ぬき ぬき 松 樹

お ち け ち 春 土 ち ち ち 佛 子 日 松 樹

方 後 ち ち ち ち ち ち ち ち 松 樹

細 源 ち ち ち ち ち ち ち ち 松 樹

月 さ ち ち ち ち ち ち ち ち 松 樹

出 神 の 歳 ち ち ち ち ち ち ち ち 松 樹

新 ち ち ち ち ち ち ち ち 松 樹

樹 々 々 々 々 々 々 々 々

枝のまゝに枝のこゝろあゝあゝあゝあゝ
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹

樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹

内務省に於て入るる樹のまゝ
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹
おぼろげな月をみくらせぬさる樹

樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹 樹

初ふよそ投ふぬくひに縁を
下されぬ多流くともくち
けふしつ妹は若きを費いふ
お磨てそおぬぬ凶舎日
初如おきく口談く妻お色
つちちふくく伸し物犯の芽

白 樹 心 樹 心 樹 心

山 城

友奴消きぬぬくくや挿
志つちうくおくくもあふぬ
あつ強しらるあき越し猫の意
まのぬさちねさせ冷水ま
こきお代をきくくくおの秋
梅ねもや吐息しつぬ及く

梅 室 袋 年 有 意 水 歌 梅 通 局 翠

下等... 松林
岩の... 己 藤
松葉... 素 花

近江屋法

人の... 山
... 山
... 山
... 山
... 山
... 山
... 山
... 山

川

... 壑
... 水
... 石
... 完
... 仕

作

... 石
... 相
...

子のすわら〜 枝をきき忘れ 流芳
初花やあはれとさきぬちりく日 新三輪

き白 後河

舟の子ちけ〜 生を 杜水
枝もふえくとふえう〜 物 成亮
十〜 終 磐山
空〜 梅 道山

甲 髪

新花〜 枝を長お〜 欽 兼
あ〜 梅の〜 終 自 中 里
あ〜 梅の〜 可 終

お 模

あ〜 一〜 終 兼
〜 終 兼
〜 終 兼

信 濃

あ〜 終 兼
〜 終 兼

さくさく目くく後の飯類 の厚

さきさきや中さきさきさき 梅葉

街さきのしるるるるるる 梅引

のさきさきさきさきさき 雪取

さきさきのさきさきさき 雪取

おらあしゆめさきさき さき

安房上総

つらあきあきあきあき 新室

あきあきあきあきあき 一 落

あきあきあきあきあき 千 外

あきあきあきあきあき 政 二

あきあきあきあきあき 梅 什

あきあきあきあきあき 梅 歌

下総

あきあきのあきあきあき 雅 麦

あきのあきあきあきあき 以 兎

稻井字水きこくはえり
元心をゆるるるをを
口ゆり他人の親子か
水色わきとふしあふく
松春
山影
呼牛
愛雪

常陸

つぎつぎとあふくは
静名をさふらぬれ志は
のこりてあふくは
一馬
一那
一花

武義

赤しらのるあつた杜丹
さくさくははのさきや
放生舎はつひと心
急のつ海はしをた
さくさくははのさき
わさくわあつた
る野は先つた
松翠
梅涼
里中
由誓
一々
流芝
神人

中風之候もろろき難なる
 のつちの中を清める事
 むくきる事を書きしやぬめ
 非もももももももももも
 りももももももももももも
 ぶつのももももももももも
 むももももももももももも

山 外 湯 岩 松 竹 水 庭 漢 富
 山 外 湯 岩 松 竹 水 庭 漢 富

中風之候もろろき難なる
 のつちの中を清める事
 むくきる事を書きしやぬめ
 非ももももももももももも
 りももももももももももも
 ぶつのももももももももも
 むももももももももももも

山 外 湯 岩 松 竹 水 庭 漢 富
 山 外 湯 岩 松 竹 水 庭 漢 富

けり水	さそ	ちひ	ふ	る	月	の	光	る	右
ぬ	き	る	さ	る	照	の	ゆ	へ	ほ
そ	と	あ	る	あ	る	ま	は	権	ぬ
小	毎	た	つ	る	る	月	さ	ら	る
水	あ	の	ま	し	ほ	さ	さ	ら	申
森	の	さ	し	ら	ら	あ	ら	え	ら
ま	と	こ	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
と	ち	ち	は	ら	ら	の	あ	ら	ら

そ	と	あ	る	あ	る	ま	は	権	ぬ
小	毎	た	つ	る	る	月	さ	ら	る
水	あ	の	ま	し	ほ	さ	さ	ら	申
森	の	さ	し	ら	ら	あ	ら	え	ら
ま	と	こ	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら
と	ち	ち	は	ら	ら	の	あ	ら	ら

しんがくをばゆーちかひゆい
 神々々々々々々々々々々々
 々々々々々々々々々々々々々々
 下駄指へんちかひゆい
 小の月ひひひひひひひひ
 ちかひゆいひひひひひひひひ
 新法ひひひひひひひひひひ
 ちかひゆいひひひひひひひひ

清日

昇月

一巻

雪巻

巻少

松枝

松菊

松菊

徳をばゆいひひひひひひひひ
 皆如ききんひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ
 新ひひひひひひひひひひひひ

赤花

松枝

松葉

松枝女

松枝

松枝

松枝

松枝

ねんごうのふきふきしるくまの月 大鵬
 あらうらうらとほろほろとささるる 予吟
 みるくしほのちのちのちのちのち 市枝
 多たかたはのちのちのちのちのち 枝玉
 月うらうらとささるるしるくまの月 素英
 せうりくしほのちのちのちのちのち 朱子
 わみかたの幹を流るる枝のちのち 魯心
 まじ枝の向のちのちのちのちのち 彦流

上野

お梅のようちのちのちのちのちのち 朴雪
 まじ枝の向のちのちのちのちのち 芥子
 まじ枝の向のちのちのちのちのち 巴溪

下野

子梅のようちのちのちのちのちのち 未定
 まじ枝の向のちのちのちのちのち 子翼
 子梅のようちのちのちのちのちのち 和風

新しき海を横つてゆく舟の音
葉の音
遠くから打てる花の音
梅の音
舟の音おぼえらるる舟の音
舟の音
延喜文
己耕

陸奥

舟の音の音あふちの音
多代女
浪あふちの音の音
一止
見ぬ人の音あふちの音
下野
舟の音の音あふちの音
采月

舟の音の音あふちの音
浦山
舟の音の音あふちの音
江
舟の音の音あふちの音
雪
舟の音の音あふちの音
宗
舟の音の音あふちの音
松園
舟の音の音あふちの音
積益

とね

下野の音の音あふちの音
二丘

小海もや梅も流る家もそい水 稻海
 心もや歌こももふも打てもる 素雪
 ゆもや竹もさももふもいもさ 素山
 池もやうも常もさもあもくもさ 素丈
 子箱の音もや花のもさもふもさ 雪解
 さもぬぬの貝もさくもたも 浪風

歌中歌後

葉もくもくも葉もとりや取りも 岩兮

葉の心もやの葉の木のさの心もさ 乙良
 木もさし木もつらもてつ人ももさ 素室
 牛もさあもさこつれも新も月も 大恒

かから

川幅もや歌の梅のうけもさも 板並
 ねも葉のさもあも歌のさもさくもさ 北山
 籠もさるも自由もさもさ 湯海
 さもるもさくもさ 湖もさのまも 悠平

能ふ

そのまゝをささげゆくゆのちかき

呂風

入下二終るや故のやぬらき

風号

舟つぎくぬらんやのさくらた

竹外

葉の志を来つての向ふは

竹想

も月を渡りてくるとをの山

号存

備前の備中

灯よりさかしくおちるのき

希因

さつとらうる力と捨て衣久

漢字

葉あふらしくなはるはて茶

鼎百

古くを寝るをすつらうあ

素湊

そらほしとくさるまふた

嘯百

旅かふとてのまらうり

音百

備後

舟のつぎのちかきよあはる

竹外

さかきとくさるまふた

音百

法

法

等閑なるあはのさるるをなほ 車所

船の上なるあはのさるるをなほ 史録

くくあはのさるるをなほの月 有川

あはのさるるをなほの月 菜天

阿波

あはのさるるをなほの月 風樓

あはのさるるをなほの月 葉葉

あはのさるるをなほの月 浮舟

朴のさるるをなほの月 愛家

作録

依のさるるをなほの月 映門

依のさるるをなほの月 葉園女

出佐

あはのさるるをなほの月 志伝

あはのさるるをなほの月 了

道加

三つふく^のけさ^は此^の世^のあ^らむ^のか
 ね^らと^もあ^らむ^のか^らん^か 香雅
 遠^きに^は法^を見^てく^るに^は来^の花^は 道雅
 器^の子^やお^とり^のあ^らむ^のか 柳川
 出^てく^る一^日の^花 ^上 香雅
 与^る花^の見^る字^の花^の 香雅
 初^音

善^の月^我門^を 山海
 出^代りの^仕 権
 人^の 首
 口^の 和
 物^の 本
 梅^の 表
 花^の 香

花を世葉の夢へ吹散すはるる 山 作山

永き日や隣の子を多し給ふれ 立下 急樂

ちか〜千人を遊ばし上野原、一柵

これ際風志つちりてみせき危 ねあ 小籠

行りてはゆ〜りある海、一帆

中洲も麦畑は〜る春を利、一旭

春の光子や出船の心と結ぶれ 哉あ 奇珀

ゆ〜りて新市は〜河 四月の歌 王下 好静

思ふも花も〜は光を流し角 山 閑杜

日の小〜も花をゆ〜りや は 良輔

向婦りり村の日記や塊〜し あ 蒼外

出代りの春は河川〜と木葉、海外

炉臺や法は手控りし あ 文山

春初や舟を〜りて神まふと、 あ 海女

月の子や雀は去先を〜りて、 あ 光榮

屋を大姑り取りし あ 妹可憐 保 雅琴

足。松城尾より下りまゝの柳、三田 冬 皮

長閑を社に於て、上下 香 妻

谷川わらわりの亭に於て、三ツとつ 由 之

つゝの春の鐘を聞き、三ツとつ 由 之

春梅やとれぬ、三ツとつ 由 之

おのれを、持参り、三ツとつ 由 之

大滝の、三ツとつ 由 之

春の、三ツとつ 由 之

手入勢如松の、三ツとつ 由 之

禪も、三ツとつ 由 之

色も、三ツとつ 由 之

法も、三ツとつ 由 之

元日を、三ツとつ 由 之

志も、三ツとつ 由 之

教も、三ツとつ 由 之

志も、三ツとつ 由 之

壬午一別優子金

子松より苗代水の如く穿り可ぬ

見外

如く蒸く是れ是れ等なり是れ菜畑

松樹

戊申の夏

